

嗜好の如きも、古今の異またかくの如し、其ドクダミといふものは、其臭氣食ふべしとも思はれず、人の

〔大和本草九〕雜草 葸菜 ドクダミト云、又十藥トモ云甚臭アシ、家園ニウフレバ繁茂シテ後ハ除

キガタシ、駿州甲州ノ山中ノ村民、ドクダミノ根ヲホリ、飯ノ上ニオキムシテ食ス、味甘シト云、本

草ニモ柔滑菜類ニノセタリ、サレドモ本邦ノ人アマチク食ハズ、菜トスベカラズ、且有小毒ト云、

和流ノ馬醫用之馬ニ飼フ、十種ノ藥ノ能アリトテ、十藥ト號スト云、

〔和漢三才圖會百二〕柔滑菜 葸菜 魚鯉草 和名之布木、俗云地字也、久、又云止久、陀三、

本綱、葸菜生濕地山谷陰處、亦能蔓生、葉似蕎麥、而肥莖紫赤色、又云似苕葉、其狀三角一邊紅、一邊青、

有鯉氣、可以養豬、山南人好生食之、多食令人氣喘、小兒食之覺脚痛、恐由閉氣故也、素有脚氣人食之

一世不愈、

葉辛微温 有小毒 治疔瘡癰爛之傳、乃痛一二時、不可去草、痛後一二日即愈、又治痔瘡、煎湯熏洗、仍以草搥

痔即愈、

一種有五葸草、則五葸草 花葉相似、但根似狗脊、見山草部

按葸菜葉如苕水葵、初生帶紫色、或面青背紫、老則皆青色、夏開四葉小白花、有節不直不蔓、高五七

寸、切葉鮮者觸手即魚鯉氣、其臭也難言、又能傳便毒良、

〔廣益地錦抄四〕葸菜 田野木の下の日かげなる所をこのみて多く生ズ、花極て白く、四花にして

四方へ出、中に花まへ長ク立て、唐人笠をみるごとく成かたら、葉にあしき香ありて、手につみ切

れば臭久しくやむ事なく、俗に十藥といふ、馬のくすりに用ひて、十種のあるゆへ、十藥といふと

もいへり、いかゞまらす、

〔蜻蛉日記中〕かくのみこ、ろつくせば、ものなどもくはれず、まへのかたなるいけにまぶきと

いふ物おひたるといへば、とりてもてこといへば、もてきたりける、けにあへしらひて、ゆをまき